

令和6年度業務運営懇談会議事要旨

1 日 時：令和6年5月22日（水）10：00～12：00

2 場 所：独立行政法人農林水産消費安全技術センター本部7階大会議室
（さいたま市中央区新都心2-1さいたま新都心合同庁舎検査棟）

3 出席者

◎座長

木内 岳志 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事長

○外部有識者

川上 和久 麗澤大学 教授（Web参加）

立石 亮 日本大学 生物資源科学部 アグリサイエンス学科 教授

戸部 依子 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 会員

松井 徹 京都大学 名誉教授（Web参加）

森光 康次郎 お茶の水女子大学 生活科学部 食物栄養学科 教授

與語 靖洋 公益財団法人 日本植物調節剤研究協会 研究所 技術顧問

（五十音順 敬称略）

○説明者等

都築 伸幸 理事

功刀 豊 理事

高橋 秀一 理事

飯村 正紀 監事

服部 夕紀 監事

須永 善行 情報システム・セキュリティ統括官

浅野 正博 有害物質等分析調査統括チーム長

田熊 秀行 企画調整部長

畑中 明 総務部長

牟田 大祐 規格調査部長

松田 雄一 認定センター所長

石橋 大彦 表示監視部長

嶋崎 洋子 肥飼料安全検査部長

入江 真理 農薬検査部長

※外部有識者（欠席）

森田 満樹 一般社団法人 Food Communication Compass 代表

4 議事次第

- (1) 開会（理事長挨拶、出席者紹介）
- (2) 議事
 - ・令和5年度業務運営懇談会委員からのご意見への対応状況
 - ・令和5年度プロセス評価対象の取組紹介と業務実績自己評価の概要
 - ・その他
- (3) 全体を通した委員との意見交換
- (4) 閉会

5 質疑応答

(1) 令和5年度業務運営懇談会委員からのご意見への対応状況

外部有識者	<No. 1 肥料分析実務者研修に関する意見について> 担当者が交代することによってどうしても結果に影響がでるところであるが、今後、検査の種類や設備などばらつきが大きいものに対してどのように対応していくのか。限られた予算の中で、制度にあった教育をしていく必要がある。
説明者	ご指摘を踏まえて、研修などについても制度の変化に合った中身にしていきたい。

(2) 令和5年度プロセス評価対象の取組紹介と業務実績自己評価の概要

①肥飼料関係業務

外部有識者	<資料 2-3 P10 土壌改良資材の立入検査業務について> 新規の土壌改良資材はどのような取り扱いとなるか。
説明者	土壌改良資材として政令指定された12品目以外の資材については地力増進法の対象外となる。
外部有識者	<資料 2-2 No. 8 飼料製造管理者講習会のオンライン開催について> CBTセンターを使うと、受験者に経費が余計にかかるとのことだが、総額の受験料がいくらでその中でCBTセンターの利用はいくらになるのか。
説明者	詳細は後日回答するが、テキストの製本配布を取りやめ、ダウンロード配布するなどにより、大幅な受講料値上げにはならないように抑えた。
外部有識者	<資料 2-3 P29 立入検査業務について> 処理率 99.8%で評価がCになるのは厳しいと感じた。報告期日の誤認をしたとのことだが、評価書の評価と根拠には数字のみ記載されている。管理の面と技術的な面の違いを記載した方が、今後の評価や改善をする際に役立つと考える。誤認というのはヒューマンエラーなのか、労力不足で

説明者	<p>生じたのかなど要因は何か。</p> <p>今回の要因は、報告期日の起点をいつとするかに誤認があったためである。通常どおり FAMIC が立入検査を行った場合には立入検査を行った日が起点として認識されていたが、今回は地方農政局が立入検査し、FAMIC では収去品の分析を行ったものであった。この場合でもその起点は地方農政局が立入検査を行った日になることを担当者が認識していなかったことが要因である。</p>
外部有識者	<p>数字だけで目標を達成できなくてC評定にするのではなく、質的な評価を記載した方が職員の仕事のやりがいにも繋がり、消費者からも自分たちとの関わりを身近に感じることができて良いと考える。</p>
②農薬関係業務	
外部有識者	<p><資料 2-2 No. 4 農林水産省からの緊急要請業務について></p> <p>迅速な検査が行われたために結果的に出回らず全て回収することができたのか。</p>
説明者	<p>流通防止としては、出回らないような対応ができた。</p>
外部有識者	<p>どのような成分が入っているかわからない資材を調べたということか。そうであれば評価に値すると思う。</p>
説明者	<p>どのような成分が入っているかはわからなかったが、情報提供があったことから大体の成分は承知した上で対応した。</p>
外部有識者	<p><資料 2-2 No. 5 農薬の再評価の審査体制構築について></p> <p>農薬の再評価について、今後業務が激増し人員の配置が必要になるとのことだが、最近の学生を見ていると、就職活動時に想定していた業務と異なる業務を与えられると辞める傾向が見られるため、人事配置を行う際は出来るだけ職員へのケアを行っていただきたい。</p>
外部有識者	<p><資料 2-2 No. 6 農薬の登録審査に附帯する業務について></p> <p>以前、開発途上国において自分たちの力で分析できるようにしようとすると機器のメンテナンスなどで苦勞した記憶があるが、今はどうか。</p>
説明者	<p>以前に比べると溶媒やガスの調達など、当該国内でできるようになっている。</p>
③表示監視業務	
	<p>質疑なし</p>

④JAS 関係業務

外部有識者

<資料 2-2 No.9 日本農林規格に関する業務について>

近年、国際化の問題があった中で、いかに海外の方が JAS マークを見て日本の食品だと周知できないかと思っていた。今回の活動が真に S 評定と思えるのは、農林水産業の輸出額などが増えていくことだろうが、今後も益々世界が知る JAS、FAMIC へ発展していくことを期待する。

⑤総務関係業務

外部有識者

<資料 2-3 P29 情報の公開及び個人情報の保護について>

個人情報については、少しの操作ミスで重大な問題となる。プライバシーマークの取得をするなどして、プライバシー意識を向上させているか。ない場合は検討いただきたい。

説明者

現時点では取得していない。今後勉強し検討したい。

外部有識者

e ラーニングは行っているか。

説明者

行っている。メールの誤送信については、メールの送信方法を見直し、ドラフト保存してから送信、送信前に複数者で確認を行うなどの対策を行っている。また、情報漏洩した際の影響についても、職員周知している。

(3) その他

外部有識者

今まで文科系しかなかった大学に理科系の学部を新設する大学が増えている。理科系の就職指導がまだ軌道に乗っていない部分もあり、どのようなキャリアデザインをしたらいいのか、FAMIC から新設された理科系学部にもどのように働きかけをしているか。YouTube について、理科系キャリアを考えている大学生向けに有効活用したらいいと考える。インターンにいかなくても FAMIC のことを知ることができるため、大学生向けのコンテンツを充実させていただきたい。

説明者

現在、理科系学部が新設された大学の情報をとらえていなかった。地域を含め大学に赴いて説明などを行っており、これからも活動を広げていきたい。情報発信の手段については、FAMIC の若手職員に就職活動時の情報収集について確認したところ、X で情報収集していた職員が多かったことから、今年 4 月から本格的に X を開始したが、情報発信能力を伸ばしていきたい。

(4) 全体を通じた委員との意見交換

外部有識者

幅広い業務を行う上で全ての職員の希望通りの人員配置をすることは難しいため、職員の精神的ケアを行うことが大切だと感じた。また、各部署で調査研究を行い、自ら業務をどう発展させるか検討していることは素晴らしいことであり、これからも続けていただきたい。

説明者

これから農薬関係の業務が増える中、限られた職員で対応するため、異動によりこれまでと異なる業務を行う場合が生じてくる。若いうちに様々な部署を経験できる人員配置を行っており、精神的ケアを行いつつ、職員の能力を伸ばしていくことも大切と考える。

(5) 閉会

理事長

年に1回の評定では、厳格な基準に基づき評定を行うため、令和5年度はC評定も増え、総合評定は変わらずB評定となった。パフォーマンスが下がっていると思われるかと思うが、令和2年度、3年度は新型コロナや法律改正など、非常事態の中で、逆境において強みを発揮したことからA評定をいただいたかと思う。平時においては、C評定について気を引き締め、その中でも、大学や研究機関との連携や SNS での情報発信など新しい取り組みも始めているところである。今後も職員のやる気ができるような運営に努めたい。